

✳ CONTENTS

- 02 市立学校通常再開～変わったものと変わらないもの～
- 04 新型コロナウイルス感染症緊急対策
- 05 寄付寄贈
- 06 こだまスイカのPRで表敬訪問／レジ袋有料化スタート
- 07 まちの話題
- 08 不動産公売に参加しませんか
- 09 歴史資料館だよりNo.83
- 10 健康ガイド
- 12 情報ひろば
- 15 文芸さくらがわ
- 16 SAKUスポ vol.2 / 年長さんご紹介

✳ 表紙

やっぱり大スキ!



6月8日、市内の小・中・義務教育学校が通常再開しました。  
表紙は、大国小学校で新しい生活様式の中で再開した給食の様子を撮影したものです。  
新型コロナウイルス感染症の影響で、変化した学校風景でしたが、子どもたちの笑顔は、以前と変わらず教室に咲いていました。

✳ 桜川市の人口と世帯

【人口】	39,139人	(- 58)
【男】	19,377人	(- 33)
【女】	19,762人	(- 25)
【世帯】	13,732世帯	(- 5)
	( )	は対前月増減
	常住人口	
	令和2年6月1日現在	



教育現場の緊急事態を乗り越え  
新生活様式で再スタート

新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響で、小・中・義務教育学校は、約2か月半の間、臨時休校になりました。

その後、感染拡大が全国的に落ち着きを見せ始めたため、桜川市では茨城県が公表した独自の対策指針に合わせて、学校の再開時期などを検討しました。

その結果、5月18日から週1～2日の分散登校、6月1日からは全児童生徒の午前中登校を行いました。そして6月8日に通常登校になり、給食も再開しました。

教室には子どもたちの笑顔があふれ、学校に活気が戻りました。

児童生徒を感染から守り  
休校中の学習をサポート

学校では、様々な感染防止対策に取り組んでいます。

児童生徒へマスク着用の徹底、手指消毒、毎日の検温を行っています。また教室の窓や出入り口を開放し、机の間隔を可能な限り広げて授業を行っています。

市教育委員会では、インナーマスクや手指消毒液のほか、寄贈のあった不織布マスク、除菌アルコール、フェイスマスクなどを各学校に配布しました。

また、休校中の学力低下を防ぐために、各学校では教科書に基づいた課題プリントの

これからの学び舎  
新生活様式への対応

今年度は、授業時間を確保するために、夏休みの期間を短縮し、8月1日～16日までとします。

また、桜川市総合体育大会の代替大会や運動会・文化祭・修学旅行などの実施方法などは、現在検討中です。

しかし、新型コロナウイルス感染症のまん延状況によって、再度休校という措置をとらざるを得ない状況になることも考えられます。

引き続き、保護者・地域の皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。



市立学校通常再開 ～変わったものと変わらないもの～



笑顔のスパイス  
給食再開

給食の大切さと  
込められた思い

新型コロナウイルス感染症の影響で、約3か月間給食がお休みになりました。その間、今まで当たり前前に提供していた給食の意義を再認識する機会になりました。その後、6月8日から「新しい生活様式」で学校給食が再開しました。マスクを外して食事をする給食の時間には、前を向いて食べる「前向き給食」やクラスの人数を少なくした「分散

←栄養豊富で大切な給食



安全安心な食材を届けたい

桜川市産の野菜を納めてくれている「ほほえみ市」の皆さん



食を通じて、たくましく  
健やかな成長を願う

毎日の献立を考え、子どもたちに食育指導を行う  
栄養教諭の皆さん



子どもたちの笑顔のために

衛生管理を徹底し、愛情を込めて給食を作る調理員の皆さん



給食」など、各学校で感染症予防に配慮した取り組みをしています。献立も栄養面を考慮しながら、配膳しやすい給食の提供を心がけています。

学校給食は、成長期に必要な栄養を整えるだけでなく、食の大切さや郷土料理、世界の料理などを学ぶ「生きた教材」です。また、食に関わる方への感謝の気持ちや、豊かな心を育んでもらいたいという願いが込められています。

桜川市では、栄養教諭が給食を教材とした指導をしています。不自由なく食を選択できる便利な時代だからこそ、学校給食は自ら食を管理する能力を高め、「生きる力」を育む役割を担っています。

少しずつ日常を取り戻し、みんなで「おいしいね」と顔を合わせながら食べる日々に感謝しながら、また変わらない笑顔の「いただきます」を目指していきます。